

## センキュウ

Cnidium Rhizome

CNIDIUM RHIZOMA

川芎

本品はセンキュウ *Cnidium officinale* Makino (*Umbelliferae*) の根茎を、通例、湯通ししたものである。

性状 本品は不規則な塊状を呈し、ときには縦割され、長さ 5 ~ 10 cm、径 3 ~ 5 cm である。外面は灰褐色~暗褐色で、重なり合った結節があり、その表面にこぶ状の隆起がある。縦断面は辺縁が不整に分枝し、内面は灰白色~灰褐色、半透明でときにはうつろがある。本品の質は密で堅い。

本品は特異なおいがあり、味はわずかに苦い。

本品の横切片を鏡検するとき、皮部及び髓には油道が散在する。木部には厚膜で木化した木部繊維が大小不同の群をなして存在する。でんぷん粒は、通例、のり化しているが、まれに径 5 ~ 25  $\mu\text{m}$  の粒として認めることがある。シュウ酸カルシウムの結晶は認めない。

灰分 6.0 % 以下。

酸不溶性灰分 1.0 % 以下。

## センキュウ末

Powdered Cnidium Rhizome

CNIDIUM RHIZOMA PULVERATUM

川芎末

本品は「センキュウ」を粉末としたものである。

性状 本品は灰色~淡灰褐色を呈し、特異なおいがあり、味はわずかに苦い。

本品を鏡検するとき、無色ののり化したでんぷんの塊とこれを含む柔組織の破片、径 15 ~ 30  $\mu\text{m}$  の階紋及び網紋道管の破片、径 20 ~ 60  $\mu\text{m}$  の厚膜で木化した木部繊維の破片、黄褐色のコルク組織の破片、分泌組織の破片を認める。

純度試験 異物 本品を鏡検するとき、多量のでんぷん粒、石細胞、シュウ酸カルシウムの結晶及びその他の異物を認めない。

灰分 6.0 % 以下。

酸不溶性灰分 1.0 % 以下。

貯法

保存条件 遮光して保存する。

容器 気密容器。

## センコツ

Nuphar Rhizome

NUPHARIS RHIZOMA

川骨

本品はコウホネ *Nuphar japonicum* De Candolle (*Nymphaeaceae*) の根茎を縦割したものである。

性状 本品は、通例、不整円柱形を縦割した片で、ねじれ、曲がり又は多少押しつぶされている。長さ 20 ~ 30 cm、幅約 2 cm である。外面は暗褐色、断面は白色~灰白色を呈し、一面には径約 1 cm のほぼ円形~やや三角形の葉柄の跡があり、他面には径 0.3 cm 以下の多くの根の跡があ

る。質は軽く海綿ようで折りやすく、折面は平らで粉性である。横切面をルーベ視するとき、外辺は黒色で、内部は多孔性の組織からなり、維管束が散在する。

本品は弱においがあり、味はわずかに苦く不快である。

確認試験 本品の粉末 1 g にメタノール 20 mL を加え、還流冷却器を付け、水浴上で 15 分間煮沸し、冷後、ろ過する。ろ液を蒸発乾固し、残留物に希酢酸 5 mL を加え、水浴上で 1 分間加温し、冷後、ろ過する。ろ液 1 滴をろ紙上に滴下し、風乾後、噴霧用ドラージェンドルフ試液を噴霧して放置するとき、黄赤色を呈する。

純度試験

(1) 葉柄 本品は葉柄 3.0 % 以上を含まない。

(2) 異物 本品は葉柄以外の異物 1.0 % 以上を含まない。

乾燥減量 15.0 % 以下 (6 時間)。

灰分 10.0 % 以下。

酸不溶性灰分 1.0 % 以下。

## センソ

Toad Venom

BUFONIS VENENUM

蟾酥

本品はシナヒキガエル *Bufo bufo gargarizans* Cantor 又は *Bufo melanostictus* Schneider (*Bufoidea*) の毒腺の分泌物を集めたものである。

本品を乾燥したものは、プフォステロイドとして 5.8 % 以上を含む。

性状 本品は底面がくぼみ、上面が盛り上がった円盤形を呈し、径約 8 cm、厚さ約 1.5 cm、1 個の質量 80 ~ 90 g、又は両面がほぼ平らな円盤形で、径約 3 cm、厚さ約 0.5 cm、1 個の質量約 8 g である。外面は赤褐色~黒褐色で、ややつやがあり、ほぼ均等な角質で堅く、折りにくい。破砕面はほぼ平らで、破片の辺縁は赤褐色、半透明である。

本品はにおいがなく、味は初め苦く刺激性で、後に持続性の麻ひ感を生じる。

確認試験

(1) 本品の粉末 0.1 g にクロロホルム 5 mL を加え、還流冷却器を付けて水浴上で 10 分間加温した後、ろ過し、ろ液を試料溶液とし、次の試験を行う。

(i) 試料溶液 1 mL に硫酸 1 mL を穏やかに加えるとき、境界面は鮮黄色を呈し、15 ~ 20 分間放置するとき、境界面の色は赤色に変わり、クロロホルム層は淡赤色を呈する。

(ii) 試料溶液 1 mL を水浴上で蒸発乾固した後、残留物をメタノール 25 mL に溶かす。この液につき、紫外可視吸光度測定法により吸収スペクトルを測定するとき、波長 300 nm 付近に吸収の極大を示す。

(2) 本品の粉末 0.1 g に L-酒石酸溶液 (1 → 100) 5 mL を加え、水浴中で 10 分間加温した後、ろ過し、ろ液 1 mL に 4-ジメチルアミノベンズアルデヒド試液 1 mL を穏やかに加え、水浴中で 10 分間加熱し、水 10 mL を加えるとき、液は青色を呈する。

灰分 5.0 % 以下。